

# シラバス

令和5 年度

第 2 学年

昼間部(午後)

～ 柔整トレーナーコース(3年制) ～

学校法人 杏文学園

東京柔道整復専門学校

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 今田 正人	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学③		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・人体は精巧な機構によって維持されている。生物は内・外の環境情報を、感覚器系を介して受容し、神経系によってその伝達と処理を行い、生体として反応している。また、内部環境の恒常性の維持にはホルモンを介する内分泌系も関与している。このような全身の統合調節機構を形態学の面から理解する。

## 【講義概要】

- ・神経系およびそれに関する感覚器、内分泌の基本構造を理解する。
- ・各項目の基礎知識を理解しながら各自が体系化し、機能解剖学的な考え方を習得する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・解剖学 医歯薬出版
- ・イラスト解剖学: 松村譲児著 中外医学社
- ・解剖生理学: 高野廣子 南山堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	内分泌	講義
2	内分泌	講義
3	内分泌	講義
4	神経系の基礎	講義
5	神経系の基礎	講義
6	脳と脊髄	講義
7	脳と脊髄	講義
8	脳と脳神経	講義
9	脳と脳神経	講義
10	伝導路	講義
11	伝導路	講義
12	脊髄神経	講義
13	脊髄神経	講義
14	自律神経	講義
15	自律神経	講義
16	まとめ	講義
17	感覚器(外皮)	講義
18	感覚器(視覚器)	講義
19	感覚器(視覚器)	講義
20	感覚器(聴覚器・平衡器)	講義
21	感覚器(聴覚器・平衡器)	講義
22	感覚器(味覚器)	講義
23	感覚器(味覚器)	講義
24	体表解剖(体表区分)	講義
25	体表解剖(骨格系)	講義
26	体表解剖(脈管系)	講義
27	体表解剖(神経系)	講義
28	体表解剖(生体計測)	講義
29	体表解剖(生体計測)	講義
30	神経系の発展学習	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 今田 正人	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学④		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・1,2学年に学習した解剖学の発展学習を目的とし、総復習とともにこれから必要となる内容の強化する。

## 【講義概要】

・各項目の基礎知識を理解しながら各自が体系化し、機能解剖学的な考え方を習得し他方面へ応用できる学力をつける。  
・各器官系における特徴・作用について理解し説明ができ様々な問題に対応できるようになる。

## 【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。  
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。  
・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。  
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。  
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。  
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

・解剖学 医歯薬出版  
・イラスト解剖学:松村譲児著 中外医学社  
・解剖生理学:高野廣子 南山堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	運動器の発展学習	講義
2	運動器の発展学習	講義
3	内臓器の発展学習	講義
4	内臓器の発展学習	講義
5	内臓器の発展学習	講義
6	神経・感覚器の発展学習	講義
7	神経・感覚器の発展学習	講義
8	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 小林 真之、越川 憲明	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 生理学②		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・個体を構成する細胞の仕組みと機能を理解し、各臓器・器官・器官系の全体としての人体における役割と調節機序を理解して行く。

## 【講義概要】

・内分泌系の機能および生殖器系の構造と機能・調節機序、筋骨系の機能を理解できるようになる。  
・人体における体液の働き・運動において重要な神経系および筋活動の仕組み・感覚器の働きを詳細に理解する。

## 【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。  
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。  
・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。  
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。  
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。  
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

・生理学 南山堂  
・カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	内分泌腺とホルモンの一般的性質	講義
2	内分泌	講義
3	内分泌	講義
4	内分泌	講義
5	内分泌	講義
6	内分泌	講義
7	内分泌	講義
8	男性生殖器	講義
9	女性生殖器、卵巣周期、月経周期	講義
10	妊娠と分娩、乳汁分泌	講義
11	骨の構造とカルシウムの代謝	講義
12	骨の構造とカルシウムの代謝	講義
13	骨形成のホルモン調節 骨の病気	講義
14	骨形成のホルモン調節 骨の病気	講義
15	まとめ	講義
16	体液の生理学	講義
17	体液の生理学	講義
18	神経系の基本的機能	講義
19	神経系の機能	講義
20	神経系の機能	講義
21	神経系の機能	講義
22	神経系の機能	講義
23	筋肉の機能	講義
24	筋肉の機能	講義
25	筋肉の機能	講義
26	筋肉の機能	講義
27	感覚の生理学	講義
28	感覚の生理学	講義
29	感覚の生理学	講義
30	感覚の生理学	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 小林 真之、越川 憲明	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 競技者の生理		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

競技者に関わる生理学的知識を習得する。

## 【講義概要】

- ・競技者の施術にあたり、競技者の特性を理解したうえで施術を行うことが求められる。
- ・競技者の特性を学び、競技者に対する身体機能維持・改善における運動訓練の影響などを学習する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・生理学 南山堂
- ・カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	少年期から青年期の発育特性	講義
2	少年期から青年期の発育特性	講義
3	発育期の運動の影響	講義
4	発育期の運動の影響	講義
5	競技者の適応と神経機構	講義
6	競技者の適応と神経機構	講義
7	競技者の姿勢調節	講義
8	競技者の姿勢調節	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 小堀 孝浩	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 運動学		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・運動にかかわる身体の機能と構造について基本的な知識を習得する。また異常運動や運動障害を評価するための分析能力を養う。

## 【講義概要】

・運動学の基礎・各関節の動きや筋活動・姿勢・歩行・重心などをしっかりと理解する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・運動学 医歯薬出版株式会社
- ・解剖学アトラス 文光堂
- ・基礎運動学 医歯薬出版
- ・カパンディ関節の生理学 医歯薬出版

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	運動学とは、運動学の領域と目的	講義
2	運動行動の概念	講義
3	身体運動に關与する力	講義
4	単一機械構造, 運動の法則	講義
5	骨の構造と機能	講義
6	関節の構造と機能	講義
7	骨格筋の構造と機能	講義
8	神経細胞, 末梢神経, 中枢神経	講義
9	感覚と知覚, 運動感覚と制御機構	講義
10	反射 随意運動	講義
11	上肢帯の運動	講義
12	肩関節の運動	講義
13	肘関節と前腕・手関節と手の運動	講義
14	手関節と手の運動	講義
15	まとめ	講義
16	股関節の運動 膝関節の運動	講義
17	股関節の運動 膝関節の運動	講義
18	足関節と足関節の運動	講義
19	体幹と脊柱の運動	講義
20	顔面および頭部の運動	講義
21	頚椎の運動と胸椎と胸郭の運動	講義
22	腰椎、仙椎および骨盤の運動	講義
23	姿勢の分類、重心、立位姿勢	講義
24	立位姿勢の制御 歩行周期	講義
25	運動学的・運動力学的分析	講義
26	歩行時の筋活動、エネルギー代謝	講義
27	異常歩行 神経組織の成熟	講義
28	乳幼児期の運動発達 運動技能 学習効果	講義
29	床反力	講義
30	床反力	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 国田 朱子	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 病理学概論	2 単位	60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・病理学は“見る”事により病気を理解する学問である。病気を理解する為には正常の体の理解が前提となるので解剖学、生理学の知識も重要であるため総合的に理解を深める。

## 【講義概要】

・全身の様々な病気を、体の外から内まで、マクロからミクロの細胞・分子レベルの正解まで見つめていく。  
・病気の原因を探り、病態を考え、診断・治療について学ぶ中で、病気について理解を深める。

## 【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。  
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。  
・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。  
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。  
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。  
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

・病理学概論 医歯薬出版  
・深山正久、はじめの一歩のイラスト病理学、羊土社

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	病理学の方法(マクロ観察・ミクロ観察)	講義
2	意義と分類	講義
3	退行性病変、代謝障害	講義
4	代謝異常と糖尿病	講義
5	老化、壊死、死	講義
6	血液の循環障害	講義
7	血栓症、塞栓症、梗塞	講義
8	リンパ液の循環障害	講義
9	高血圧症、進行性病変(病的増殖)	講義
10	再生・化生・創傷治癒、移植	講義
11	拒絶、炎症の一般	講義
12	炎症の分類 免疫の仕組み、免疫不全	講義
13	自己免疫疾患	講義
14	まとめ	講義
15	アレルギー5型	講義
16	肉眼的形態、細胞、組織構造	講義
17	発育諸段階、影響、原因	講義
18	発癌の原因、診断と治療、分類	講義
19	良性腫瘍と悪性腫瘍	講義
20	良性腫瘍と悪性腫瘍	講義
21	主要な癌 単因性遺伝と多因性遺伝	講義
22	染色体異常、奇形	講義
23	二重体、単体奇形	講義
24	内因	講義
25	ストレス、外因	講義
26	物理的外因	講義
27	化学的外因	講義
28	生物学的外因	講義
29	外因	講義
30	まとめ	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 澤田 海彦	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 一般臨床医学①		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

「一般臨床医学(内科学)で学ぶことは柔道整復師に関係する」という認識を持つ。

## 【講義概要】

- ・内科疾患の概略をつかむ。
- ・日常の臨床で経験できるありふれた疾患から比較的稀な疾患まで幅広く理解できるように画像を使って具体的な症例を提示する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・一般臨床医学 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	診察と問診の意義、進め方	講義
2	視診の意義	講義
3	体格・姿勢、栄養、精神状態の視診	講義
4	運動異常、歩行の視診	講義
5	皮膚の異常、頭部と顔面の視診	講義
6	頸部、腹背部、四肢の触診	講義
7	打診の意義、種類、胸腹部の打診	講義
8	聴診、触診の意義、胸腹部の聴診	講義
9	皮膚と筋肉、骨関節の触診・胸腹部、リンパ節の触診	講義
10	生命徴候(体温、血圧、脈拍、呼吸)・知覚検査の意義、表在の知覚、深部、複合、その他の知	講義
11	反射検査:種類、意義、表在、深部、病的反射、クローヌス、自律神経反射	講義
12	臨床症状:発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害	講義
13	臨床症状:チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、痩せ	講義
14	臨床症状:肥満、痩せ	講義
15	まとめ	講義
16	呼吸器疾患	講義
17	呼吸器疾患	講義
18	呼吸器疾患	講義
19	呼吸器疾患	講義
20	循環器疾患	講義
21	循環器疾患	講義
22	循環器疾患	講義
23	消化器疾患	講義
24	消化器疾患	講義
25	消化器疾患	講義
26	代謝疾患	講義
27	代謝疾患	講義
28	内分泌疾患	講義
29	内分泌疾患	講義
30	内分泌疾患	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 澤田 海彦	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 一般臨床医学②		1 単位 30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

診断に必要なことのうち、一般臨床医学①で学習した内容を踏まえて各種疾患について学習する。

## 【講義概要】

- ・内科疾患の概略をつかむ。
- ・日常の臨床で経験できるありふれた疾患から比較的稀な疾患まで幅広く理解できるように画像を使って具体的な症例を提示する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・一般臨床医学 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	血液・造血器疾患	講義
2	血液・造血器疾患	講義
3	腎・尿路疾患	講義
4	腎・尿路疾患	講義
5	腎・尿路疾患	講義
6	神経疾患	講義
7	神経疾患	講義
8	神経疾患	講義
9	感染症	講義
10	感染症	講義
11	リウマチ・膠原病・アレルギー	講義
12	リウマチ・膠原病・アレルギー	講義
13	環境要因による疾患	講義
14	環境要因による疾患	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 水谷 有里 佐藤 卓弥	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 整形外科学	2 単位	60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復は外傷による運動器損傷を取り扱うことを業務としている。これに対して広く運動器疾患を取り扱うのが整形外科学であるため、外傷以外の運動器疾患の診断と治療を中心とし、その類似性と相違について理解する。
- ・整形外科に必要な知識を学習し、柔道整復学への発展的学習につなげる。

## 【講義概要】

- ・整形外科の意義、内容を理解
- ・整形外科特有な診察法、検査法、及び画像診断の概要を知り、簡単な検査法を実践する。
- ・観血療法の種類及びその適応について理解する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・整形外科学 南江堂
- ・標準整形外科学 医学書院

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	整形外科の意義、内容、歴史	講義
2	骨の基礎知識	講義
3	関節の基礎知識	講義
4	筋・神経の基礎知識	講義
5	姿勢・バランス	講義
6	上肢長・下肢長・周径	講義
7	跛行・関節拘縮と強直	講義
8	徒手筋力テスト・知覚の診断・反射	講義
9	各種画像診断	講義
10	保存療法	講義
11	観血療法	講義
12	骨折総論・スポーツ外傷	講義
13	骨折総論・スポーツ外傷	講義
14	各種リハビリテーション	講義
15	まとめ	講義
16	感染性疾患	講義
17	骨・軟部腫瘍	講義
18	非感染性軟部・骨関節疾患	講義
19	全身性骨・軟部疾患	講義
20	骨端症	講義
21	四肢循環障害	講義
22	神経・筋疾患	講義
23	神経・筋疾患	講義
24	体幹部の疾患	講義
25	体幹部の疾患	講義
26	上肢部の疾患	講義
27	上肢部の疾患	講義
28	下肢部の疾患	講義
29	下肢部の疾患	講義
30	まとめ	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 水谷 有里 佐藤 卓弥	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道整復術の適応	2 単位	30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師が業務を行うにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付ける。

## 【講義概要】

- ・整形外科領域の疾患と柔道整復術領域の外傷の違いを理解する。
- ・各病態を理解し放置した場合の合併症・危険性を理解する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・医療の中の柔道整復 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	柔道整復術の適否を考える、損傷に類似した症状を示す疾患	講義
2	損傷に類似した症状を示す疾患	講義
3	血流障害と伴う損傷	講義
4	末梢神経損傷を伴う損傷	講義
5	脱臼骨折	講義
6	脱臼骨折	講義
7	外出血を伴う損傷	講義
8	病的骨折および脱臼	講義
9	病的骨折および脱臼	講義
10	意識障害を伴う損傷	講義
11	意識障害を伴う損傷	講義
12	脊髄症状のある損傷	講義
13	脊髄症状のある損傷	講義
14	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
15	高エネルギー外傷	講義
16	まとめ	講義
17	まとめ	講義
18	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 紺野 直能	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道②	1 単位	15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・投の形を用いて、柔道の理合いを追求する。

## 【講義概要】

- ・技の成り立ち、崩し、つくり、体を理解し、形を行う。
- ・投げ技の正しい組み方、姿勢、吊り手、引き手、体裁きについて理解し行う。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

## 【授業の特徴・形式】

- ・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道の形(橋本親著)
- ・投の形・柔の形 (講道館)ビデオ

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	手技	実技
2	手技	実技
3	手技	実技
4	腰技	実技
5	腰技	実技
6	腰技	実技
7	足技	実技
8	足技	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 大木 正浩	
講義区分 専門分野	授業科目名 外傷の保存療法		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応能力の強化し、外傷の経過及び治療判断に対して適切な思考と行動を実施できるよう学習していく。

## 【講義概要】

- ・柔道整復師が行う外傷施術を理解する。
- ・各外傷に対して適切な判断を養う。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学・理論編 南江堂
- ・柔道整復学・実技編 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	損傷の診察の概論	講義
2	損傷の診察の概論	講義
3	肩部に外力が作用した場合の診察	講義
4	肘部に外力が作用した場合の診察	講義
5	手部に外力が作用した場合の診察	講義
6	足部に外力が作用した場合の診察	講義
7	膝部に外力が作用した場合の診察	講義
8	股関節部に外力が作用した場合の診察	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1期	担当教員 煙山 奨也	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道整復術の臨床判定		1 単位 30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師が臨床において傷病名を絞り込み、適切な検査により、判別ができるようにする。

## 【講義概要】

- ・柔道整復術の臨床的判定基準を理解し習得する。
- ・医療用画像診断の判断方法を習得する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・施術の適応と医用画像の理解 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	柔道整復術の適否を考える、損傷に類似した症状を示す疾患	講義
2	柔道整復術の適否を考える、損傷に類似した症状を示す疾患	講義
3	血流障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷	講義
4	血流障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷	講義
5	脱臼骨折、外出血を伴う損傷	講義
6	病的骨折および脱臼	講義
7	意識障害を伴う損傷	講義
8	脊髄症状のある損傷	講義
9	呼吸運動障害を伴う損傷	講義
10	内臓損傷の合併が疑われる損傷、高エネルギー外傷	講義
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷、高エネルギー外傷	講義
12	医用画像の理解	講義
13	医用画像の理解	講義
14	医用画像の理解	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 瀧下 晃洋 大林 典弘	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技③		2 単位 60 時間

当該教員の実務経験:柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要かつ高頻度に遭遇する前腕部の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し必要となる知識・技

## 【講義概要】

- ・前腕部の骨折の発生機序や症状、合併症などを理解し習得する。
- ・前腕部の骨折の診察、整復、固定、後療法を実践する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	前腕骨近位部の骨折	実技
2	前腕骨近位部の骨折	実技
3	前腕骨近位部の骨折	実技
4	前腕骨近位部の骨折	実技
5	前腕骨骨幹部骨折	実技
6	前腕骨骨幹部骨折	実技
7	前腕骨骨幹部骨折	実技
8	前腕骨骨幹部骨折	実技
9	前腕骨骨幹部骨折	実技
10	前腕骨遠位端部骨折	実技
11	前腕骨遠位端部骨折	実技
12	前腕骨遠位端部骨折	実技
13	前腕骨遠位端部骨折	実技
14	前腕骨遠位端部骨折	実技
15	まとめ	実技
16	手根骨部の骨折	実技
17	手根骨部の骨折	実技
18	手根骨部の骨折	実技
19	手根骨部の骨折	実技
20	手根骨部の骨折	実技
21	手部の骨折	実技
22	手部の骨折	実技
23	手部の骨折	実技
24	手部の骨折	実技
25	手部の骨折	実技
26	指の骨折	実技
27	指の骨折	実技
28	指の骨折	実技
29	指の骨折	実技
30	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1期	担当教員 大木正浩 荒井 一彦	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技④		1 単位 30 時間

当該教員の実務経験:柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要かつ高頻度に遭遇する上腕部の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し必要となる知識・技

## 【講義概要】

- ・下肢軟部組織損傷の発生機序や症状、合併症などを理解し習得する。
- ・下肢軟部組織損傷の診察、整復、固定、後療法を実践する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

## 【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	股関節部の軟損	実技
2	股関節部の軟損	実技
3	股関節部の軟損	実技
4	股関節部の軟損	実技
5	股関節部の軟損	実技
6	膝部の軟損	実技
7	膝部の軟損	実技
8	膝部の軟損	実技
9	膝部の軟損	実技
10	膝部の軟損	実技
11	足部の軟損	実技
12	足部の軟損	実技
13	足部の軟損	実技
14	足部の軟損	実技
15	まとめ	実技
16	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023年度	履修課程 2年生 第2期	担当教員 大木 正浩 荒井 一彦	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技⑤		1 単位 30 時間

当該教員の実務経験: 柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b>          ・柔道整復師として必要かつ高頻度に遭遇する手指の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し必要となる知識・技術</p> <p><b>【講義概要】</b>          ・上肢軟部組織損傷の発生機序や症状、合併症などを理解し習得する。          ・上肢軟部組織損傷の診察、整復、固定、後療法を実践する。</p> <p><b>【成績評価方法】</b>          ・定期試験にて評価する。          ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。          ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。          ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。          ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。          ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。</p> <p><b>【授業の特徴・形式】</b>          ・実技形式を基本とする。</p> <p><b>【教科書・参考書】</b>          ・柔道整復学 理論編 南江堂          ・柔道整復学 実技編 南江堂</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩部の軟損	実技
2	肩部の軟損	実技
3	肩部の軟損	実技
4	肩部の軟損	実技
5	肩部の軟損	実技
6	肘部の軟損	実技
7	肘部の軟損	実技
8	肘部の軟損	実技
9	肘部の軟損	実技
10	肘部の軟損	実技
11	手部・指の軟損	実技
12	手部・指の軟損	実技
13	手部・指の軟損	実技
14	手部・指の軟損	実技
15	まとめ	実技
16	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 福岡 孝俊、井口 良平	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技⑥		2 単位 60 時間

当該教員の実務経験:柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要かつ高頻度に遭遇する膝部～足部の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し必要となる知識・技術を習得する。

## 【講義概要】

- ・下肢骨折の発生機序や症状、合併症などを理解し習得する。
- ・下肢骨折骨折の診察、整復、固定、後療法を実践する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	骨盤骨折	実技
2	骨盤骨折	実技
3	骨盤骨折	実技
4	骨盤骨折	実技
5	骨盤骨折	実技
6	大腿近位端部の骨折	実技
7	大腿近位端部の骨折	実技
8	大腿近位端部の骨折	実技
9	大腿近位端部の骨折	実技
10	大腿遠位端部の骨折	実技
11	大腿遠位端部の骨折	実技
12	大腿遠位端部の骨折	実技
13	大腿遠位端部の骨折	実技
14	まとめ	実技
15	膝蓋骨骨折	実技
16	膝蓋骨骨折	実技
17	膝蓋骨骨折	実技
18	膝蓋骨骨折	実技
19	下腿骨骨折	実技
20	下腿骨骨折	実技
21	下腿骨骨折	実技
22	下腿骨骨折	実技
23	足根部の骨折(舟状骨)	実技
24	足根部の骨折(舟状骨)	実技
25	足根部の骨折(距骨、踵骨)	実技
26	足根部の骨折(立方骨、楔状骨)	実技
27	中足骨の骨折	実技
28	中足骨の骨折	実技
29	中足骨の骨折	実技
30	足趾の骨折	実技
31	まとめ	実技
32	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 菊地 正 村越 嵩紀	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技⑦		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・スポーツ現場での柔道整復師として役割を学び、スポーツ現場はもとより、施術所においても今や必須であるテーピングやスポーツマッサージの実際を学ぶ。

## 【講義概要】

- ・各関節及び上下肢・体幹のテーピングを学ぶ。
- ・スポーツマッサージの基本と損傷における基本手技を学ぶ

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
2	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
3	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
4	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
5	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
6	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
7	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
8	柔道整復師としてのスポーツ現場での対応術	実技
9	下肢のテーピング	実技
10	下肢のテーピング	実技
11	下肢のテーピング	実技
12	下肢のテーピング	実技
13	下肢のテーピング	実技
14	下肢のテーピング	実技
15	上肢のテーピング	実技
16	上肢のテーピング	実技
17	上肢のテーピング	実技
18	上肢のテーピング	実技
19	上肢のテーピング	実技
20	上肢のテーピング	実技
21	体幹部のテーピング	実技
22	体幹部のテーピング	実技
23	体幹部のテーピング	実技
24	体幹部のテーピング	実技
25	柔整トレーナーとしての技術	実技
26	柔整トレーナーとしての技術	実技
27	柔整トレーナーとしての技術	実技
28	柔整トレーナーとしての技術	実技
29	柔整トレーナーとしての技術	実技
30	柔整トレーナーとしての技術	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 2年生 第1・2期	担当教員 村越 嵩紀	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技⑧		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要な施術を東京柔道整復専門学校独自で監修した内容で実践的に学習し習得することを目的とする。

## 【講義概要】

- ・临床上にて特に携わることが多い軟部組織損傷の発生機序や症状、合併症などを理解し習得する。
- ・临床上にて特に携わることが多い軟部組織損傷のの診察、整復、固定、後療法を実践する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

・実技形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩腱板損傷	実技
2	肩腱板損傷	実技
3	肩腱板損傷	実技
4	肩腱板損傷	実技
5	肩腱板損傷	実技
6	肘内側側副靭帯損傷	実技
7	肘内側側副靭帯損傷	実技
8	肘内側側副靭帯損傷	実技
9	肘内側側副靭帯損傷	実技
10	肘内側側副靭帯損傷	実技
11	上腕骨外側上顆炎	実技
12	上腕骨外側上顆炎	実技
13	上腕骨外側上顆炎	実技
14	下腿三頭筋肉離れ	実技
15	下腿三頭筋肉離れ	実技
16	下腿三頭筋肉離れ	実技
17	ドケルバン病	実技
18	ドケルバン病	実技
19	ドケルバン病	実技
20	ドケルバン病	実技
21	変形性膝関節症	実技
22	変形性膝関節症	実技
23	変形性膝関節症	実技
24	変形性膝関節症	実技
25	変形性膝関節症	実技
26	足関節捻挫	実技
27	足関節捻挫	実技
28	足関節捻挫	実技
29	足関節捻挫	実技
30	足関節捻挫	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023年度	履修課程 2年生 第2期	担当教員 紺野 直能 村越 嵩紀	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技特講①		1 単位 30 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年第1期までに学習した柔道整復術の内容にて技術の臨床上必要な発展学習を目的とする。</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期にて学習した外傷施術を実践的に取り組む。</li> <li>・第1期にて学習した施術方法に類似した応用的施術を考察・検討する。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。</li> <li>・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。</li> <li>・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>・柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩関節脱臼	実技
2	肩関節脱臼	実技
3	肩関節脱臼	実技
4	肘関節脱臼	実技
5	肘関節脱臼	実技
6	肘関節脱臼	実技
7	鎖骨骨折	実技
8	鎖骨骨折	実技
9	鎖骨骨折	実技
10	肩鎖関節脱臼	実技
11	肩鎖関節脱臼	実技
12	肩鎖関節脱臼	実技
13	PIP関節背側脱臼	実技
14	PIP関節背側脱臼	実技
15	PIP関節背側脱臼	実技
16	まとめ	実技
17	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023年度	履修課程 2年生 第3期	担当教員 大木 正浩、瀧下 晃洋、荒井 一彦	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技特講②		2単位 60 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年までに学習した臨床柔道整復学並びに柔道整復実技を総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とす</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年までに学習した外傷施術を実践的に取り組む。</li> <li>・2学年までに学習した施術方法に類似した応用的施術を考察・検討する。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。</li> <li>・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。</li> <li>・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>・柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	下腿骨の骨折への施術	実技
2	下腿骨の骨折への施術	実技
3	下腿骨の骨折への施術	実技
4	下腿骨の骨折への施術	実技
5	上腕骨顆上骨折への施術	実技
6	上腕骨顆上骨折への施術	実技
7	上腕骨顆上骨折への施術	実技
8	上腕骨顆上骨折への施術	実技
9	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
10	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
11	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
12	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
13	指部の脱臼への施術	実技
14	指部の脱臼への施術	実技
15	指部の脱臼への施術	実技
16	指部の脱臼への施術	実技
17	膝部のテーピング技術	実技
18	膝部のテーピング技術	実技
19	膝部のテーピング技術	実技
20	膝部のテーピング技術	実技
21	足部のテーピング技術	実技
22	足部のテーピング技術	実技
23	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
24	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
25	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
26	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
27	顎関節脱臼への施術	実技
28	顎関節脱臼への施術	実技
29	顎関節脱臼への施術	実技
30	顎関節脱臼への施術	実技
31	まとめ	実技
32	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員(代表)	
2023 年度	2年生 第1・2・3期	荒井 一彦、紺野 直能、菊地 正、井口 良平	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習(2年生)		2 単位 90 時間

当該教員の実務経験:柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A単位;学校附属臨床実習施設以外での学校指定臨床実習施設にて実践的施術を体験をする。</li> <li>・B単位;スポーツ現場などでの救護活動を通じて柔道整復師としての施術を習得する。</li> <li>・3年生時に行う学校附属臨床実習施設での最終臨床実習への足掛かりとし、将来につながる技術の研鑽に努める。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と出席状況によりまとめる。</li> <li>・実習後のレポートで評価する。</li> <li>・出席率、実習態度、レポートで総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p>

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	臨床実習	・各臨床実習施設毎にて実施する。	
2	方法	・5時間18日を基本とする。	
3		・各臨床実習施設の事情を踏まえた時間配分を可能とし、合計90時間となれば可とする。	
4	A単位	附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設で実施	
5	1単位	▶附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設の条件	
6	45時間	・臨床実習における到達目標が設定されており、これに沿って実習ができること。	
7		・施術所は5年以上の開業実績があること。	
8		・教員の資格を有する柔道整復師、又は5年以上実務に従事した後に厚生労働省の定める基準に合った「柔道整復師臨床実習指導者講習会」を修了した柔道整復師である	
9		臨床実習指導者が配置されていること。	
10		・過去1年間の施術日の平均受診者数が20名以上であること。	
11		・臨床実習の実施に関し必要な施設及び設備を利用することができること。	
12			
13	B単位	スポーツ大会などの救護活動	
14	1単位	▶活動の種類	
15	45時間	サイパンマラソン	
16		八丈島野球救護	
17		フットサル大会救護	
18		バスケット大会救護	
19		東南アジア競技会シーゲームス	
20		八丈島フットサル救護	
21		八丈島老人機能訓練	
22		ホノルル救護	
23		練馬少年野球救護	
24		障がい者スポーツ救護	
25		講道館救護	
26		埼玉県柔道大会救護	
27		練馬わんぱく相撲	
28		八丈島マラソン	
29		サイパンマラソン	
30		八丈島野球救護	